

2023年(令和5年)の新ゴム消費予想量

この予想は、主要製品(業種)別に検討された当年の新ゴム消費予想量をもとに、当会で策定したものである。

ゴム工業での消費予想量

2022年の国内経済は、ウイズコロナへの方針転換で社会活動の制限が緩和されたことから徐々に回復を示してきたが、一方で、ロシアのウクライナ侵攻、世界的なエネルギー価格や原材料価格の高騰および物価上昇とこれに続く欧米各国の金融引き締め等により先行きの不透明感が強まった。しかしながら主要経済指標を見ると、引き続き緩やかに持ち直しており(鉱工業生産指数4.0%、GDP<実質>1.7%、民間企業設備投資<実質>4.3%)、関連業界については、国内自動車生産台数が年後半から回復を示しているものの、半導体不足の影響が残った。

このような状況下、主力の自動車タイヤは、本数ベースでは国内出荷・輸出とも前年を上回っているが、ゴム量ベースでは前年をわずかに下回ったほか、工業用品も自動車生産の回復が遅れた影響から前年を下回り、国内ゴム工業の新ゴム消費量は、1,251.0千トン、前年比-0.5%と微減の見込みとなった。なお、2023年は、景気回復や半導体不足の解消が進み、1,298.7千トン、前年比+3.8%の予想である(表-1)。

表-1 ゴム工業における新ゴム消費量

	2021年 (R3年) (実績)	2022年 (R4年) (見込み)	2023年 (R5年) (予想)
消費量(千トン)	1,257.1	1,251.0	1,298.7
前年比(%)	115.7	99.5	103.8

(注) 本表の消費量は2022年末に策定された各業種団体等の予想および経済産業省統計の実績(1~10月)を基にとりまとめている。

主要製品別の新ゴム消費の内訳は、表－２のとおりである。

表－２ 主要製品別の 2022 年の新ゴム消費見込みと 2023 年の消費予想

(単位:トン)

製品別	2021 (R3年) (実績)		2022 (R4年) (見込み)		2023 (R5年) (予想)	
		前年比		前年比		前年比
タイヤ類	1,026,550	117.4	1,023,790	99.7	1,056,890	103.2
自動車タ・チ	1,014,730	117.5	1,009,660	99.5	1,040,960	103.1
その他のタイヤ類	11,820	103.0	14,130	119.5	15,930	112.7
工業用品類	213,020	109.2	209,270	98.2	223,370	106.7
ゴムベルト	19,040	113.5	18,080	95.0	17,720	98.0
ゴムホース	32,380	111.7	32,920	101.7	34,690	105.4
その他の工業用品	161,600	108.3	158,270	97.9	170,960	108.0
その他製品類	17,480	105.3	17,940	102.6	18,440	102.8
ゴム履物類	1,220	96.8	1,090	89.3	1,120	102.8
その他のゴム製品	16,260	106.0	16,850	103.6	17,320	102.8
ゴム製品計	1,257,050	115.7	1,251,000	99.5	1,298,700	103.8

- (注)①タイヤ類はJATMA統計による。「自動車タ・チ」には運搬車タ・チ、フラップ・リムバンドを含み、「その他のタイヤ類」には、更生タイヤ用練生地(経済省統計)を含む。
工業用品類およびその他製品類は経済産業省の生産動態統計をベースとし、その他製品類の「その他のゴム製品」には 当会のゴム引布製品の統計を含めている。
- ② 工業用品類のうち「その他の工業用品」は、防振ゴム、各種パッキン、スポンジ製品、ゴム板、ゴムロール、防舷材、ゴムライニング等とする。
- ③ その他製品類のうち「ゴム履物類」は、ゴム底布靴、総ゴム靴等とし、「その他のゴム製品」は運動競技用品、医療衛生用品のほか、ゴム手袋、ゴム引布、家庭用品、事務用品等とする。

主要製品別の当年の新ゴム消費予想の内訳：

(1) タイヤ類（1,056,890 トン、前年比 103.2%）

○ 自動車タイヤ・チューブ

新車用は、国内乗用車生産が回復を示すと見込まれ、合計で前年を上回ると予測した。

市販用も、夏用タイヤ・冬用タイヤともに増加の見通しで、コロナ禍前の2019年水準まで回復すると予測した。

輸出用は、前年からの回復傾向が続くと見込み、増加と予測した。

以上を総合して、当年の自動車タイヤ・チューブの生産は、新ゴム量ベースでは1,040,960 トン、前年比 103.1%と予想した。

○ その他のタイヤ類

更生タイヤについては、輸送需要の増加や環境志向の高まりにより普及が進むと考えられることから、前年を上回ると予測した。

その他についても、移動制限の緩和等に伴い国内外の需要が大幅に回復すると見込んで、全体では新ゴム量ベースで15,930 トン、前年比 112.7%と予想した。

(2) 工業用品類（223,370 トン、前年比 106.7%）

○ ゴムベルト

主力のコンベヤベルトは、国内向けは鉄鋼メーカー等の主力需要先が回復して前年を上回る予測であるが、輸出向けは海外景気の低迷を受けて鉱山需要が落ち込み、合計で前年を下回り、コロナ禍前の2019年比で7割弱の水準と予測した。

一方、伝動ベルトは、内需は増加、輸出は減少が見込まれるが、自動車産業および工作機械産業向けの回復もありコロナ禍前の2019年を超えるると予測した。

以上を総合して、当年のゴムベルトの生産は、新ゴム消費量ベースで17,720 トン、前年比 98.0%と予想した。

○ ゴムホース

ゴムホースは、自動車用ホース（新ゴム消費量ベースでゴムホース全体の約7割を占める）が、自動車向け半導体不足の解消により前年第4四半期の生産水準が続くと見込まれることから、前年比で増加と予測した。また、高圧用ホースも建設機械用や工作機械用等で需要が引き続き高水準で推移すると見込まれるため、前年を上回ると予測した。

以上により、当年のゴムホース生産による新ゴム消費量は 34,690 トン、前年比 105.4%と予想した。

○ その他の工業用品

その他の工業用品について品目別にみると、防振ゴムは、半導体不足解消による自動車メーカーの生産回復で、+8.0%と予測した。パッキン類は、自動車向けなど関連の主要産業で増産を見込み、+5.9%と予想した。スポンジ製品も、主力の自動車向けで顧客の増産が見込まれることから+15.2%と予測した。ゴムロールは、製紙用で電子媒体化等による需要減および製鉄用で客先の設備統合が続き減少となる一方、印刷用では前年比微増、その他用でも前年を上回る見込みで、全体では前年並みと予測した。ライニングは、下振れリスクが残り、一部の用途で前年を下回るが、主力の化学工業用（ソーダ用）、水処理関係等で引き続き大幅増となり、電力関係でも回復の見込みのため、+10.0%と予測した。防舷材は、先行きに不透明感がある一方で、公共事業やリプレースでの需要が見込まれるため前年並みと予測した。ゴム板は、コロナ禍からの回復による成長を見込み、+2.7%と予測した。

以上を総合して、その他の工業用品での新ゴム消費量は 170,960 トン、前年比 108.0%と予想した。

(3) その他製品類（18,440 トン、前年比 102.8%）

○ ゴム履物

ゴム履物は、コロナ禍の収束が不透明で、為替の影響など懸念材料もあるが、行動制限の緩和により需要が回復基調になってきたことから、生産増加を見込み 1,120 トン、前年比 102.8%と予想した。

○ その他のゴム製品

その他のゴム製品について、医療衛生用品は、新型コロナウイルスの影響が限定的となり、販売拡大による生産増を見込んで+2.9%と予測した。運動競技用品は、球技用ボールでは学校行事や各種競技大会の開催回数増加による需要回復と海外需要の好調が続き、ゴルフ用ボールも国内外向けで需要増が見込まれるため+6.1%と予測した。また、ゴム手袋は、最も消費量が多い家庭用使い捨てタイプでコロナ禍以降の需要増が継続し、作業用も各業種で需要回復が期待されることから+10.0%と予測した。ゴム引布は、加工品の大口物件が好調で、新製品の本格稼働も見込み、+8.6%と予測した。

以上により、全体では、新ゴム消費量で 17,320 トン、前年比 102.8%と予想した。

(付) ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費割合

2023 年のゴム工業における新ゴム消費量 1,298.7 千トン（前年見込み比 103.8%）のうち、天然ゴムと合成ゴムの消費内訳は、天然ゴムが 696.1 千トン（同 103.8%）、合成ゴムが 602.6 千トン（同 103.8%）の予想である（天然ゴムの使用比率は 53.6%）（表－3）。

表－3 ゴム工業における天然ゴムと合成ゴムの消費内訳

(単位:千トン)

	2021年 (R3年) (実績)	2022年 (R4年) (見込み)		2023年 (R5年) (予想)	
			前年比		前年比
天然ゴム	664.1	670.5	101.0%	696.1	103.8%
合成ゴム	593.0	580.5	97.9%	602.6	103.8%
合計	1,257.1	1,251.0	99.5%	1,298.7	103.8%
天然ゴムの 使用比率(%)	52.8	53.6	+0.8	53.6	±0.0

以上

<参考①>

ゴム工業とゴム工業以外での新ゴム消費量：

(単位：千トン)

	2021年 (R3年) (実績)	2022年 (R4年) (見込み)	前年比	2023年 (R5年) (予想)	前年比
			%		%
ゴム工業	1,257.1	1,251.0	99.5	1,298.7	103.8
ゴム工業以外	227.4	219.4	96.5	216.5	98.7
合計	1,484.5	1,470.4	99.1	1,515.2	103.0

<参考②>

1. 四輪車の生産台数：

	2021年 (R3年) (実績)	2022年 (R4年) (見込み)	2023年 (R5年) (予想)
生産台数(千台)	7,847	7,975	8,507
前年比(%)	97.3	101.6	106.7

(注) 2022年の見込みおよび2023年の予想台数は、
一般社団法人日本自動車タイヤ協会の見通し数字による。

2. 2023年度の主要経済指標の対前年度増減率：

実質国内総生産(GDP)	1.5
実質民間最終消費	2.2
実質民間企業設備投資	5.0
鉱工業生産指数	2.3
為替レート(円/ドル)	142.1

(注)「令和5年度の経済見通しと経済財政運営の
基本的態度」(2022.12.22閣議了解)より